

## Intelligent Compaction に関する日米ワークショップのご案内

土工や舗装工で ICT 施工が普及する中で、土や舗装材料の締固め作業においても ICT を活用して施工の合理化、品質向上を図ろうとする取り組みが進んでいます。転圧機械の走行軌跡管理による施工管理はすでに汎用技術として取り入れられています。振動ローラの加速度応答を用いた締固め地盤の品質評価技術も現場への適用が始められています。振動ローラの加速度応答を用いた締固め施工管理の手法は、1980 年頃にヨーロッパで開発され、欧米を中心にその推進がはかられていますが、日本では土質特性などに起因して、必ずしも普及するまでには至っていません。

このような状況を踏まえて、国際インテリジェントコンストラクション技術グループ(IICTG)の George Chang 会長と Soheil Nazarian 教授が来日されるのに併せて、Intelligent Compaction に関する日米ワークショップを開催することになりました。同技術の日米の普及・活用状況に関する情報共有と課題の明確化を通じてこの技術のさらなる発展を目指しています。ご参加いただきますよう、ご案内をいたします。

主 催 : 土木学会建設用ロボット委員会

担 当 : 同委員会 新技術小委員会 振動締固めに関する研究 WG

開催日 : 2019 年 4 月 22 日(月) 13:00~17:00

会 場 : 地盤工学会 地階大会議室, 東京都文京区千石 4-38-2

定 員 : 100 名(定員に達し次第締め切ります)

言 語 : 英語. ただし, 資料は日英 2 言語で準備. 講演内容については逐次, 日本語での概要説明を入れます.

参加費 : 無料

次第(予定) (下記の発表時間には 5 分間の質疑応答と抄訳時間を含みます)

13:00-13:10 開会 建山和由(立命館大学理工学部)

13:10-13:40 アメリカにおける Intelligent Compaction 普及の概況 George Chang 氏

13:40-14:10 土/路床の締固めへの IC 適用 Soheil Nazarian 氏

14:40-15:10 日本における Intelligent Compaction 普及の概況 古屋弘氏(榊大林組)

15:10-15:20 休 憩

15:20-16:00 飽和度および IC による土の締固めの管理について 龍岡文夫氏(東大名誉教授)

16:00-16:40 アスファルト締固めへの IC 適用と"VETA"によるデータ管理と舗装 BIM との将来的な結合  
George Chang 氏

16:40-17:00 質疑・討論

参加申し込み:土木学会 HP の「本部行事の参加申込」(下記アドレス)より申し込んでください。

<http://www.jsce.or.jp/event/active/information.asp>

参加申込締切日 2019 年 4 月 17 日(水)

問合せ先:

酒井重工業(株) 技術開発部 内山恵一 Email:[k-uchiyaama@sakainet.co.jp](mailto:k-uchiyaama@sakainet.co.jp) TEL:049-256-4550

## 講師のご紹介:

### George Chang 氏

国際インテリジェントコンストラクション技術グループ(IICTG)の会長兼運営委員会理事, Transtec グループ(コンサル)研究部長. 舗装の平坦性とインテリジェントコンパクション (IC)技術に関する世界的な専門家で, 2007 年以来, アメリカの高速道路庁 (FHWA)と IC の普及(ソフト開発, 現場試験と講習会の主催)を精力的に展開



### Soheil Nazarian 氏

国際インテリジェントコンストラクショングループ(IICTG)の技術担当及びの兼運営委員会メンバー, テキサス大学エルパソ校(UTEP), 交通インフラシステム部長及び土木工学の McIntosh Murchison 財団主任教授. 地盤工学における土質材料および非破壊試験分野と交通インフラの分野で 35 年以上の経験があり, テキサス州交通局(DOT), 連邦高速道路庁(FHWA), 及び戦略的高速道路研究計画(SHRP)等からの予算による 100 以上の研究プロジェクトの主任及び副主任を歴任.



### 龍岡 文夫 氏

東京大学名誉教授, 東京理科大学名誉教授, 元世界地盤工学会副会長, 元世界ジオシンセティックス学会会長, 元日本地盤工学会会長, 元土木学会副会長. 地盤材料の強度・変形特性, 地山補強土工法を始め, 地盤工学の発展に貢献. 近年は, 福島県藤沼ダムや九州小石原川ダム等で土の締固め管理について新たな手法を提案.



### 古屋 弘 氏

株式会社大林組技術研究所 上級主席技師, 熊本大学客員教授, bSJ 理事, 元地盤工学会副会長. 施工時の機械振動などからの品質判定手法を研究し, 1998 年より加速度応答法による締固め管理を研究し装置開発を行い関西国際空港 II 期島造成工事で大規模に採用された. また ICT を用いて機械施工をシステム化や近年では高速通信機器を用いた遠隔操縦や建設分野のロボット化に関する開発も実施.

